

### 編集後記

日本医史学雑誌第65巻4号をお届けいたします。今号も原著3編を含め、盛りだくさんの内容となっています。また、寄せられる投稿数も回復しており、編集委員としてうれしい限りです。編集委員一同、皆様からの投稿をお待ちしております。

さて、前号より雑誌の仕様が変更になっていることにお気づきでしょうか？ 使用している紙が若干薄くなり、他に空白のページをなくすよう配慮するようになりました。これにより作製の費用が若干は抑制されましたが、本年10月の消費税増税でほぼ相殺されてしまうようです。数年前、当編集後記で「変わらずに生き残る為には、変わらなければならない」（映画「山猫」（1963年、ルキノ・ヴィスコンティ監督））という言葉を紹介しましたが、実際の雑誌作製においてもこの言葉が現実のものになってしまっています。

さて、話は変わりますが、本年10月の本学会例会において「時に癒し、しばしば和め、常に慰む—*guérir quelquefois, soulager souvent, consoler toujours*」という言葉が、わが国では誤ってフランスの外科医パレの言葉として引用され、国家試験の問題として出題されてしまった、という報告がありました。このような過ちを正し誤用の拡大を防ぐことも、本学会の重要な使命と考えます。上述の雑誌作製費のささやかな節約も、本学会の良質な研究を数多く世に問うという目的があればこそです。皆様に高水準の論文をご投稿いただけるよう、編集委員一同、お待ちしております。私自身も会員として論文を投稿しなければならないので、自戒を込めつつ。

(逢見 憲一)